

II-P 66 耐糖能異常妊婦の橈骨動脈内膜中膜厚及び血流依存性血管拡張反応

鈴鹿医療科学大学医用電子工学科¹、三重大学産科婦人科²
吉田 純¹、杉山 隆²、前川有香²、日下秀人¹、豊田長康²

【目的】耐糖能異常妊婦における血管壁器質的変化と血管内皮機能の関連性を検討する目的で、橈骨動脈の内膜中膜厚(IMT)および血流依存性血管拡張反応(FMVD)を計測した。【対象】正常妊婦(NP群)53名、妊娠前糖尿病合併妊婦(DM群)8名、妊娠糖尿病(GD群)7名の計68名を対象とした。【方法】超音波断層法にて橈骨動脈のIMTおよびFMVDを計測した。【結果】NP群と比較しDM群では有意にIMTが高値となっていたがGD群では有意差を認めなかった。またDM群GD群ともにNP群と比較しFMVDは有意に低値となっていた。【考察】DM群GD群のいずれもFMVDが低下しており血管内皮機能障害をきたしているものと考えられたが、IMT増大はDM群のみにみられIMT増大にはある程度長期の罹病が関与しているものと考えられた。【結語】IMT計測及びFMVD計測の耐糖能異常妊婦における有用性が示唆された。